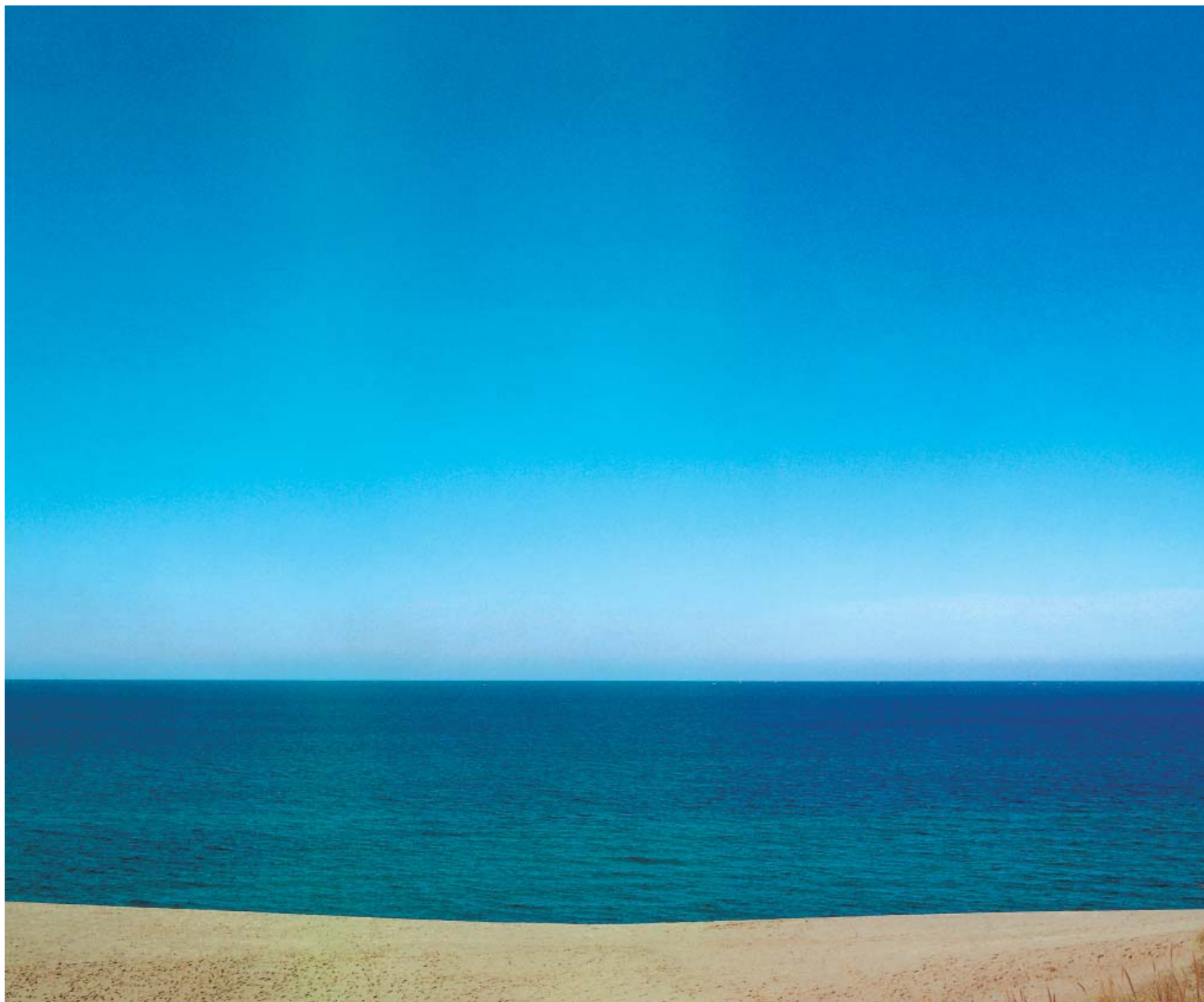




海の詩

江尻宏泰



空と海と砂

広がる無限の世界

悠久の潮の流れ

その向うに光がある

表紙写真
裏表紙写真
詩

鳥取県鳥取砂丘
静岡県伊豆稲取
鳥取砂丘にて

海の詩 写真

理学博士 江尻宏泰

大阪大学名誉教授
チェコ工科大学客員教授



海の詩

写真は光による個性の表現である。撮影者は光とレンズを通して、自分の目と感性で見たものを表現する。自分の視点で被写体に向かい、自分の感性との共鳴の瞬間をとらえ、シャッターを切る。

個性豊かな写真は、撮影者の独創的な目で見た世界を現している。またそれを視てどう感ずるかも、視る人の目による。そこにあるのは人間の視る目であり、それを認識する感性だ。

事実、写真の事を英語では Photograph（フォトグラフ）、即ち光（フォトン）の画（グラフ）という。画家が絵の具を使って絵を描くように、撮影者は光を使って自分が視て感じた事を印画紙に画く。視覚を通しての自分の心を表す「写心」である。主体は人間で、カメラは表現の手段だ。

同じ被写体でも、撮影者によって全く異なった写真になる。もし写真が被写体と言う一つの「真実」を正確に写すものであるなら、どれも大体同じになる筈だ。写真の良し悪しはカメラによる事になる。しかし 100 人の人が同じカメラで一つの対象を撮影しても、100 種の異なった写真ができる。100 人の異なった目があり、それぞれの感性・個性があるからだ。

ある意味で写真は科学と共通する。科学研究者は研究対象の中に理と美を探究し、それを論文として表現する。そこには新しい認識の創造性があり、個性ある理性がある。写真では、撮影者が被写体に新しい美を発見し、それを光の画として描く。それは創造的な美だ。

海の光の興味は、視る位置、方向はもとより、太陽の位置、雲の様子、日時、風向風速、温度、湿度、気圧等、そして視る時の心により千変万化することだ。そして海の光は豊かな「音の旋律とリズム」を伴う。

この写真集は、私の心の琴線に触れた一瞬の海の光を撮影した 47 葉の光の画集だ。それは、私の心に生きる無限の海の光と音の詩である。

江尻宏泰 2008 年 6 月 6 日

目次 海の詩

I. 潮光

曙光Ⅰ
曙光Ⅱ
弦楽四重奏Ⅰ
弦楽四重奏Ⅱ
フルート四重奏
クラリネット五重奏
潮光Ⅰ
潮光Ⅱ
奏鳴曲
夜想曲

II. 詩曲

幻想曲Ⅰ
幻想曲Ⅱ
サファイアⅠ
サファイアⅡ
エメラルドⅠ（和歌：ローデスの海）
エメラルドⅡ
翡翠Ⅰ
翡翠Ⅱ
アクアマリンⅠ
アクアマリンⅡ

III. 波動

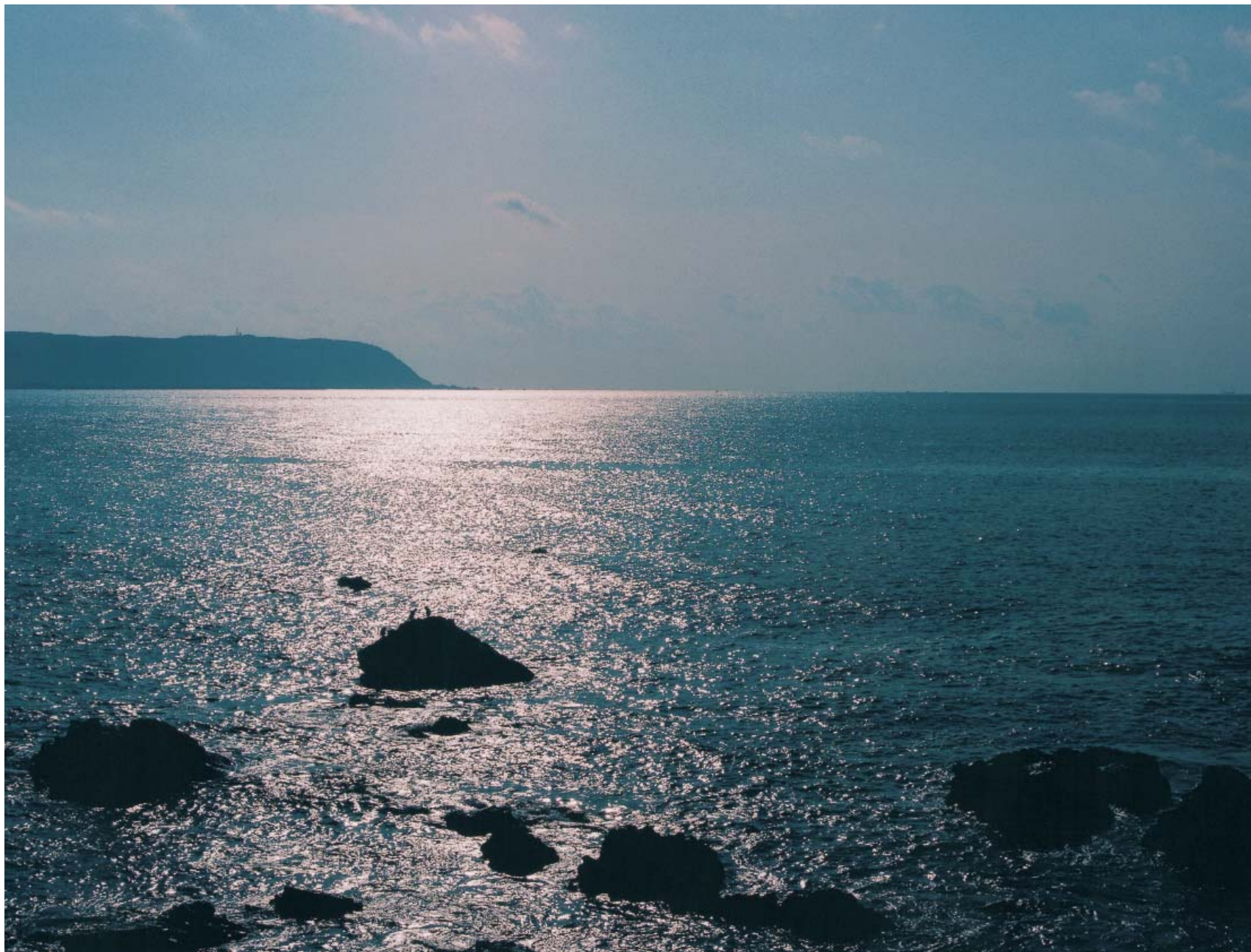
入り江の合奏Ⅰ（詩：入り江のざわめき）
入り江の合奏Ⅱ
波濤の連弾Ⅰ
波濤の連弾Ⅱ
爽風Ⅰ
爽風Ⅱ
海のリズムⅠ
海のリズムⅡ
碧
藍

IV. 粛洋

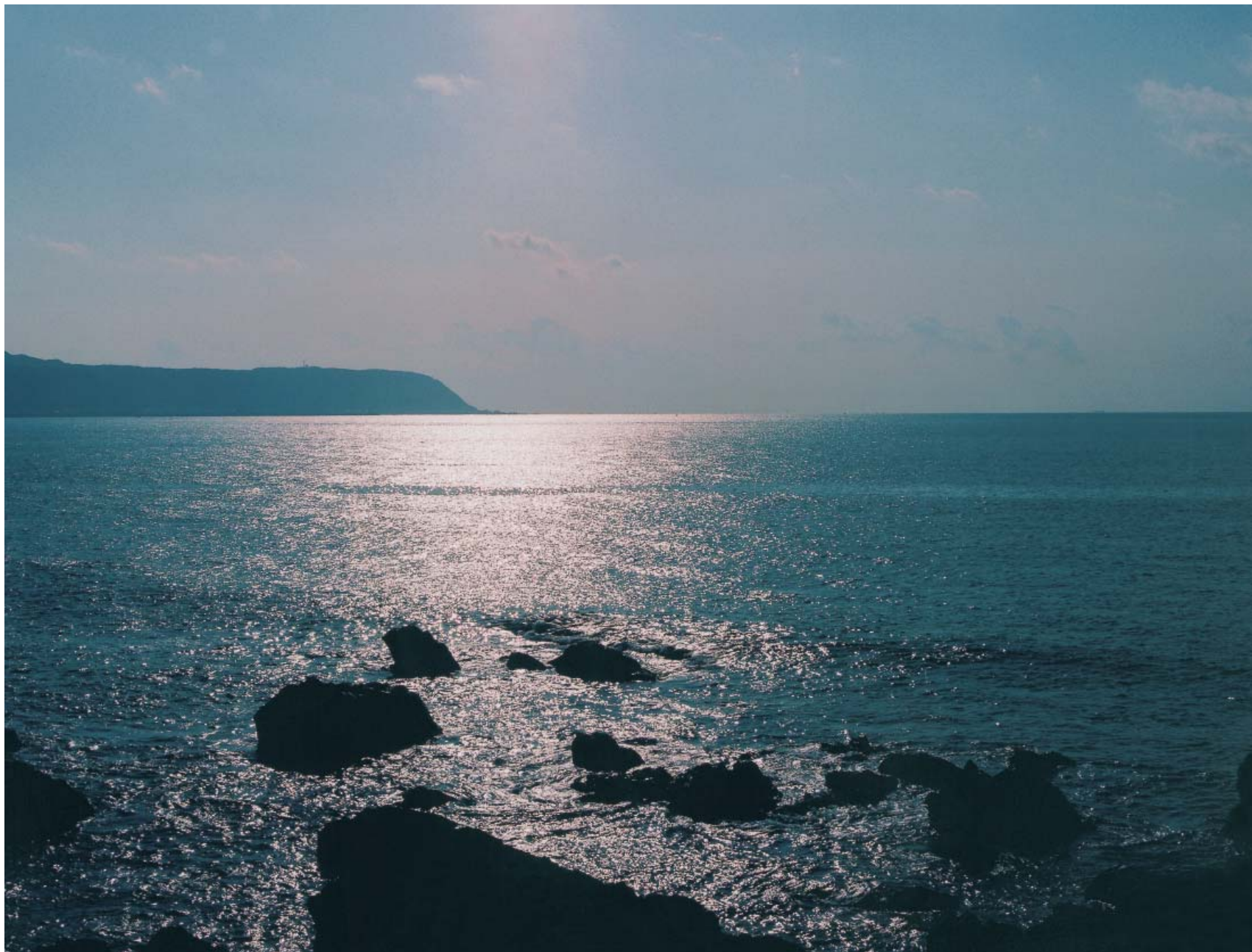
照洋Ⅰ
照洋Ⅱ
ローデスの海Ⅰ
ローデスの海Ⅱ
蒼の風景Ⅰ
蒼の風景Ⅱ
茜Ⅰ
茜Ⅱ
粛Ⅰ
粛Ⅱ



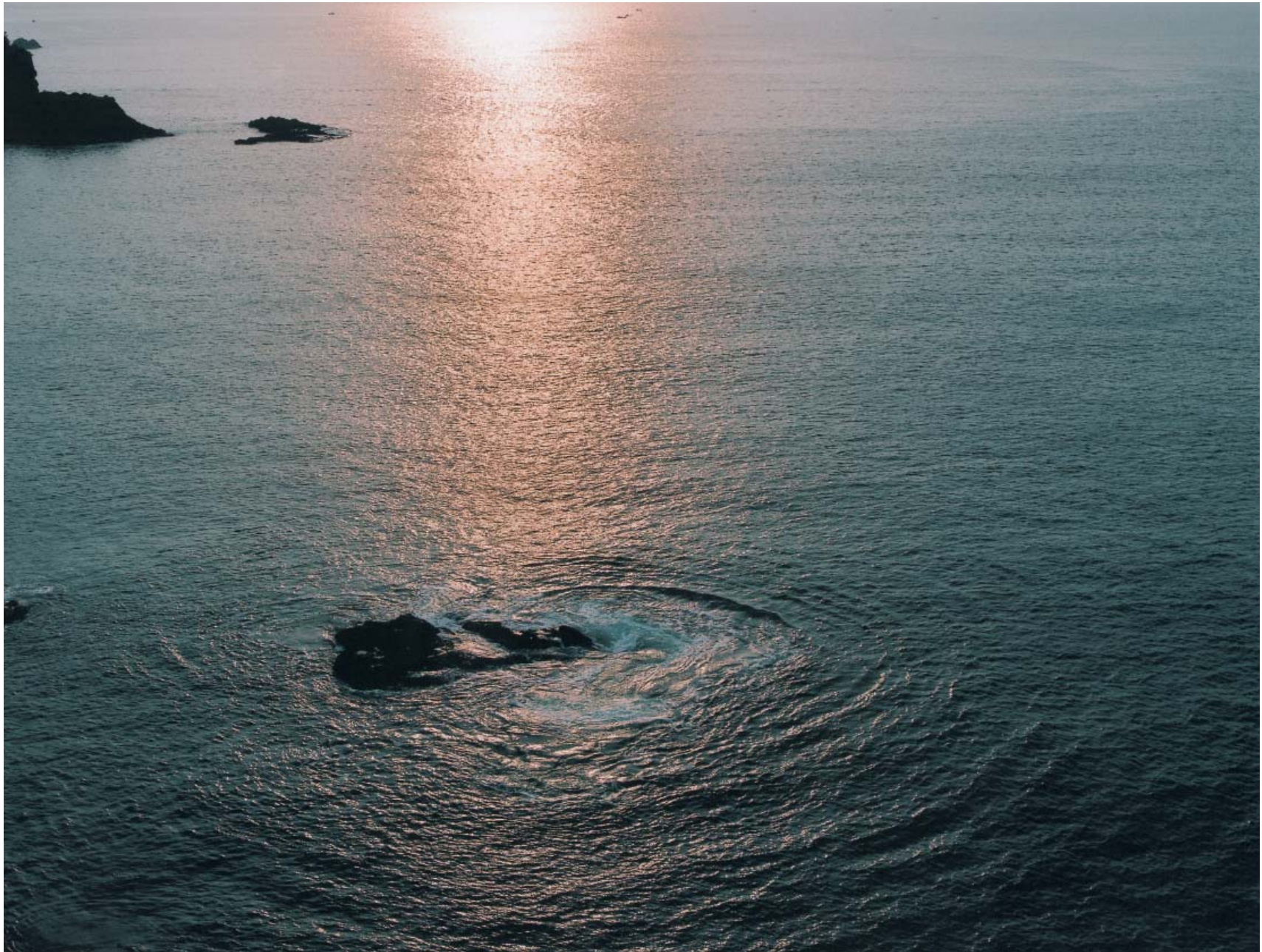
I . 潮光



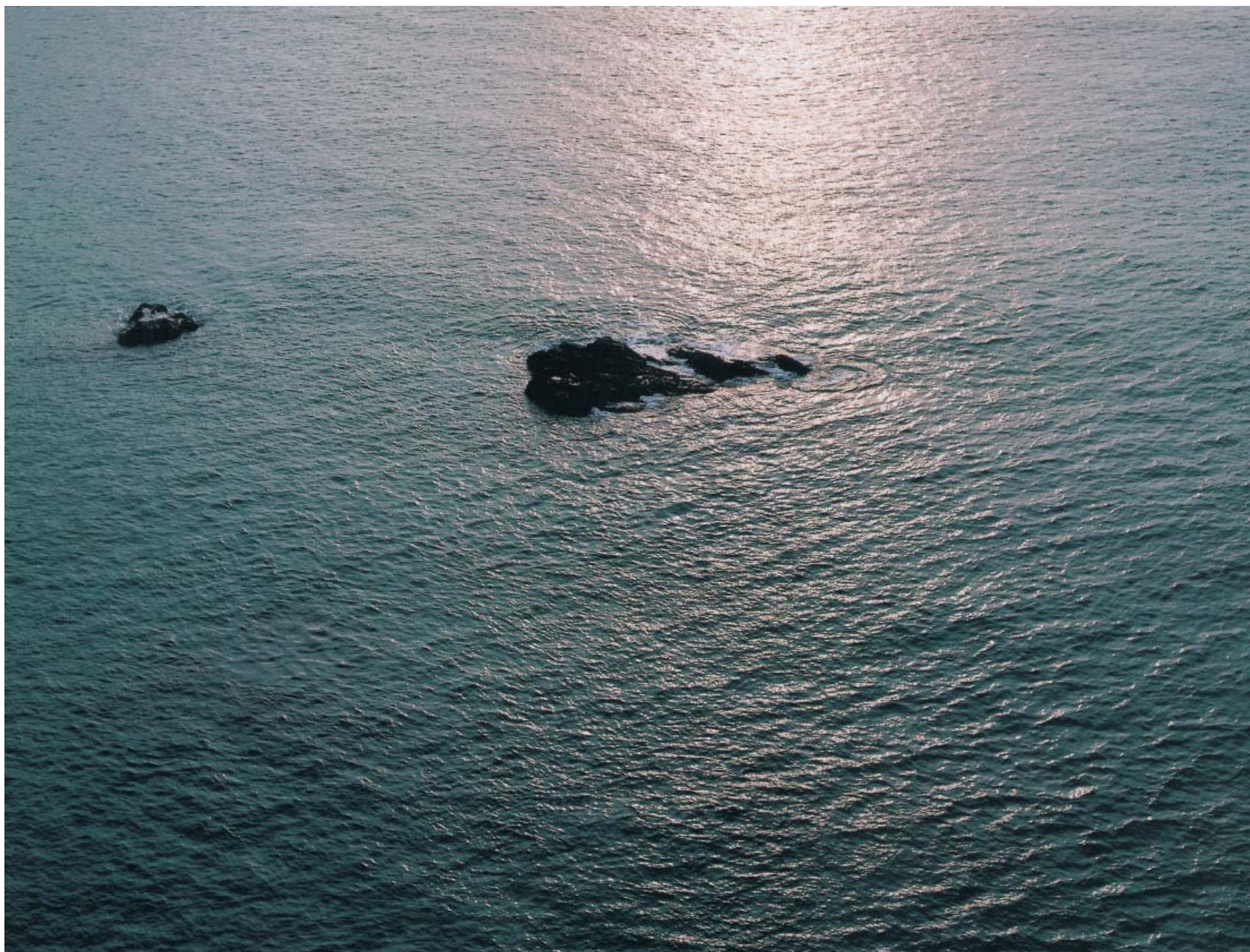
曙光 I



曙光Ⅱ



弦樂四重奏 I



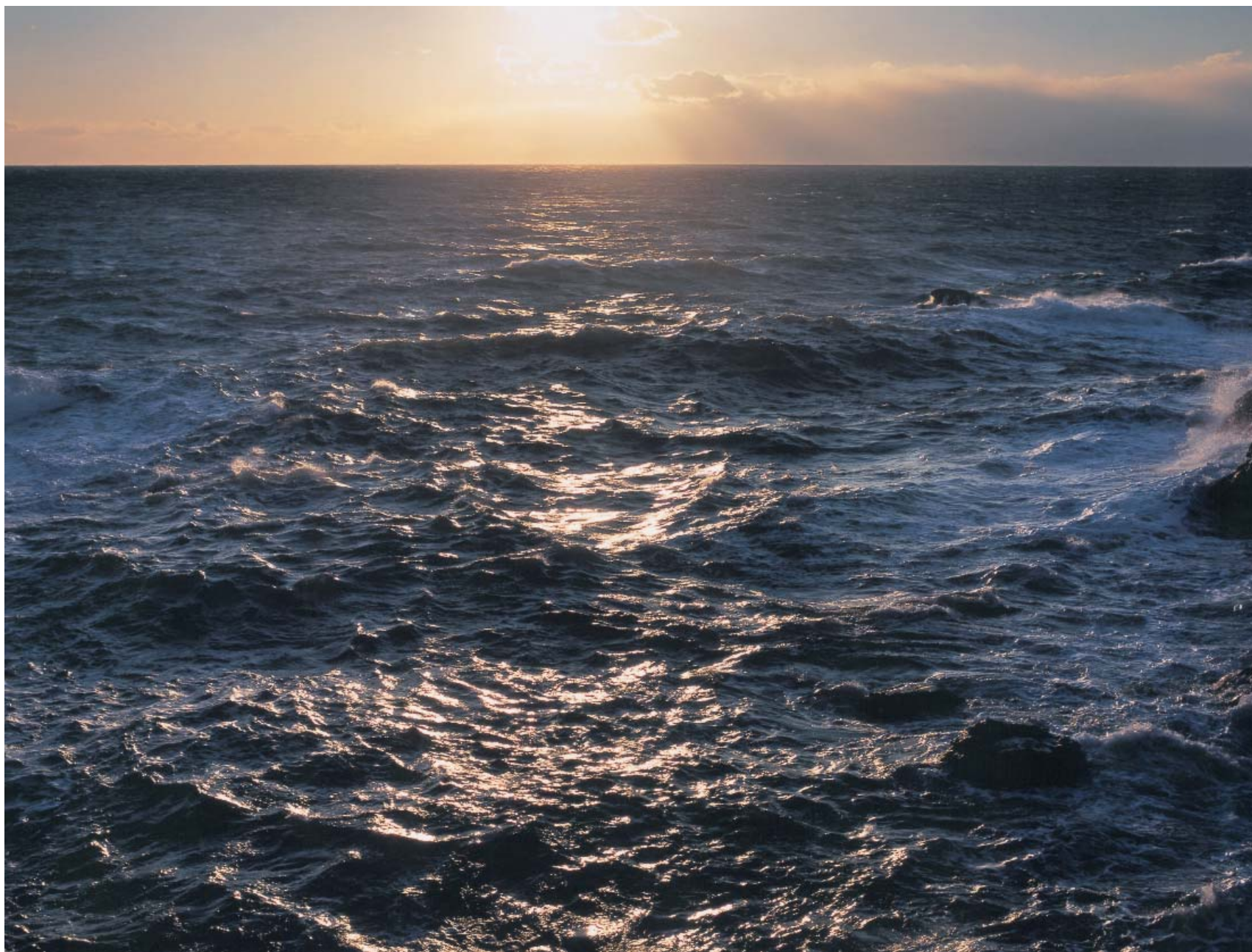
弦樂四重奏Ⅱ



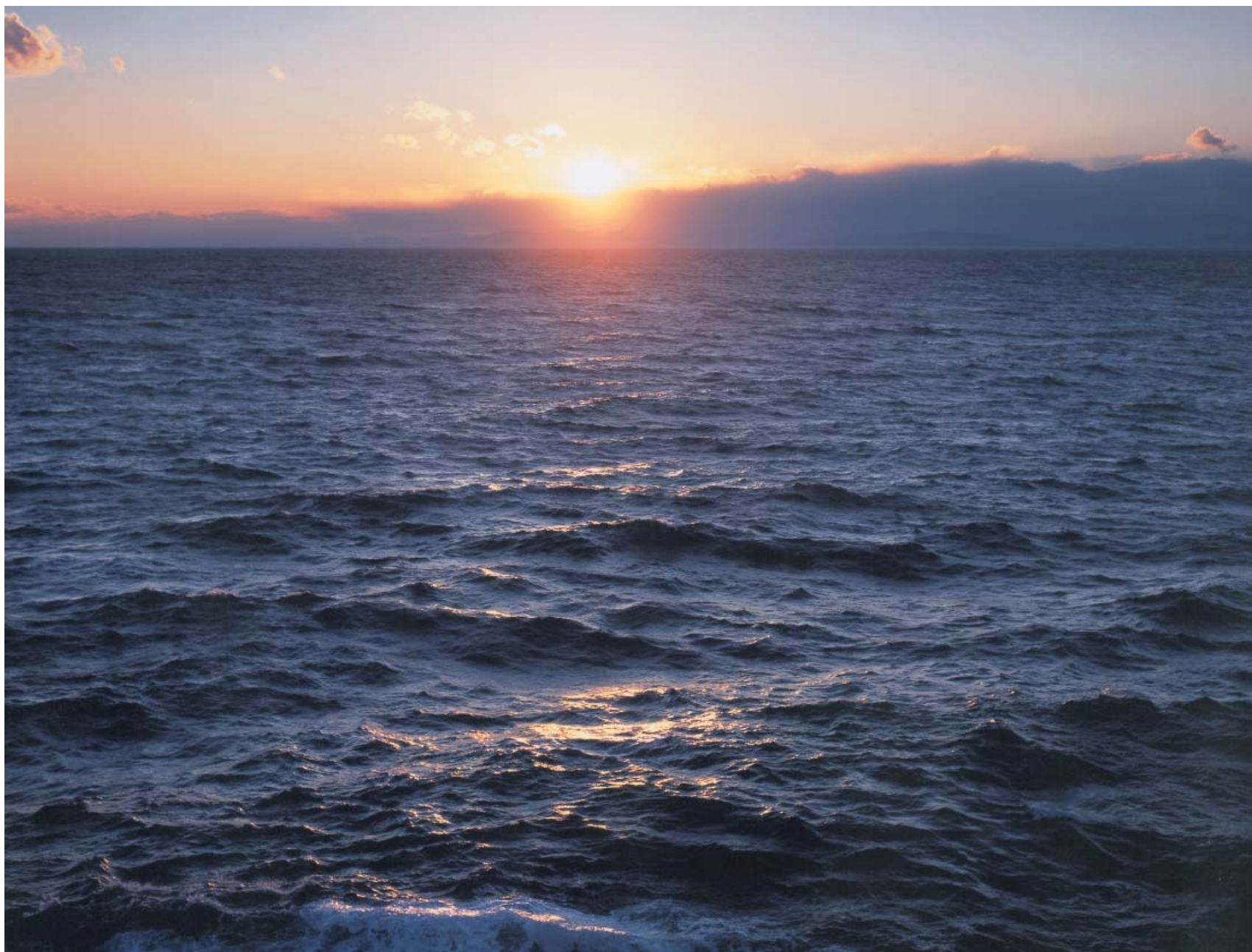
フルート四重奏



クラリネット五重奏



潮光 I



潮光Ⅱ



奏鳴曲



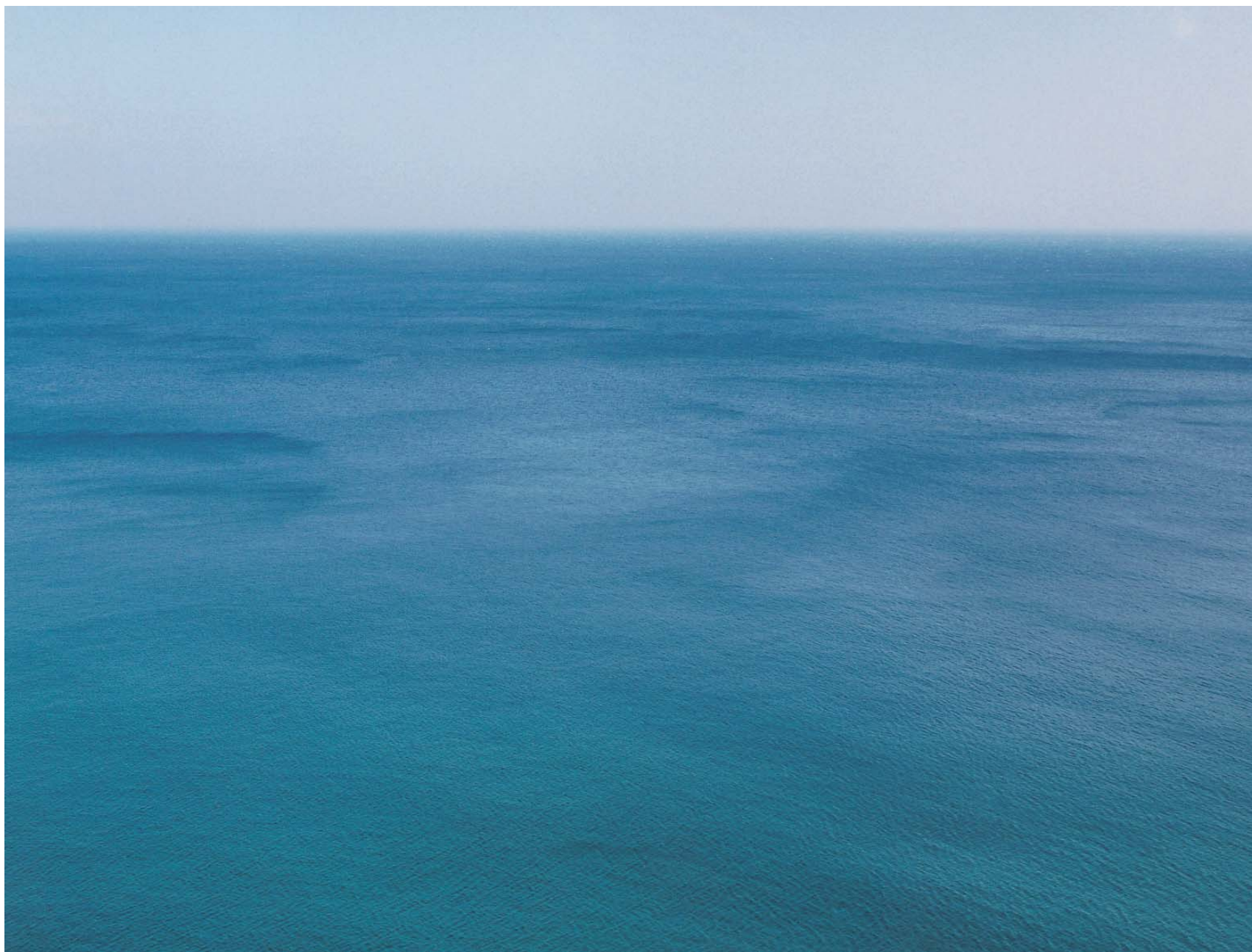
夜想曲

潮光
曙光Ⅰ,Ⅱ
弦楽四重奏Ⅰ,Ⅱ
フルート四重奏
クラリネット五重奏
潮光Ⅰ,Ⅱ
奏鳴曲 夜想曲

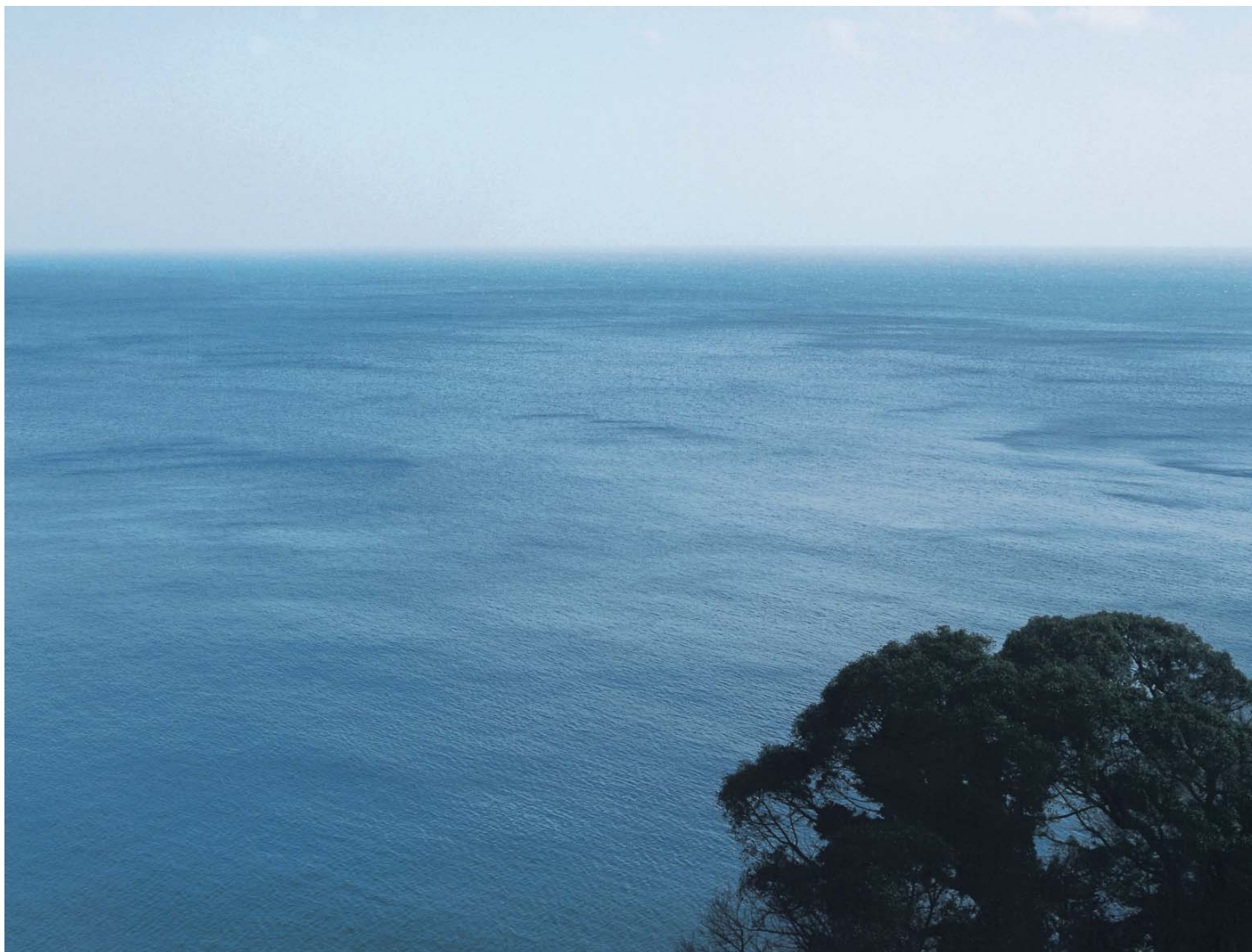
徳島県 日和佐海岸
高知県 室戸岬東岸
徳島県 日和佐海岸
徳島県 日和佐海岸
徳島県 日和佐海岸
静岡県 伊豆西岸
香川県 小豆島西岸



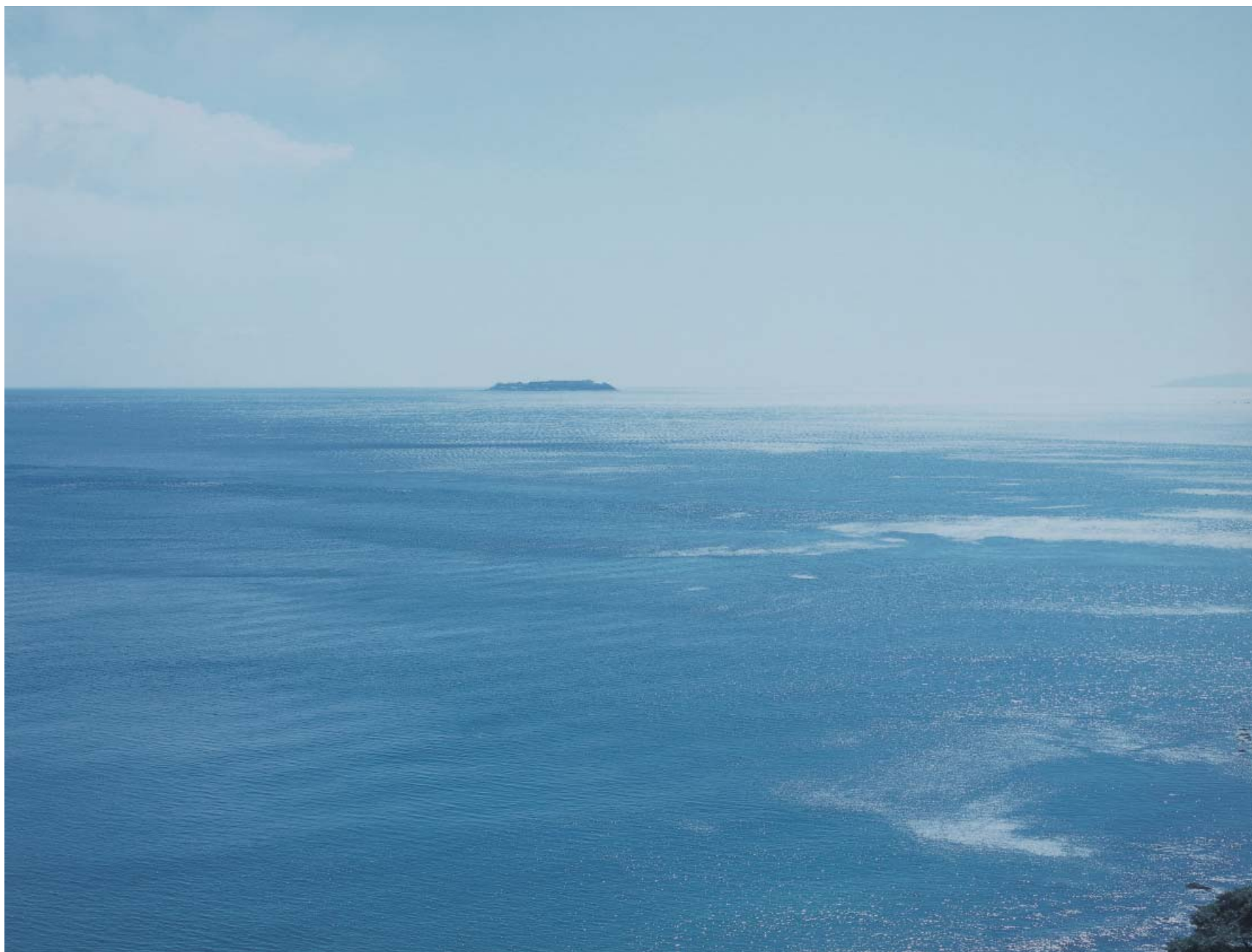
Ⅱ. 詩曲



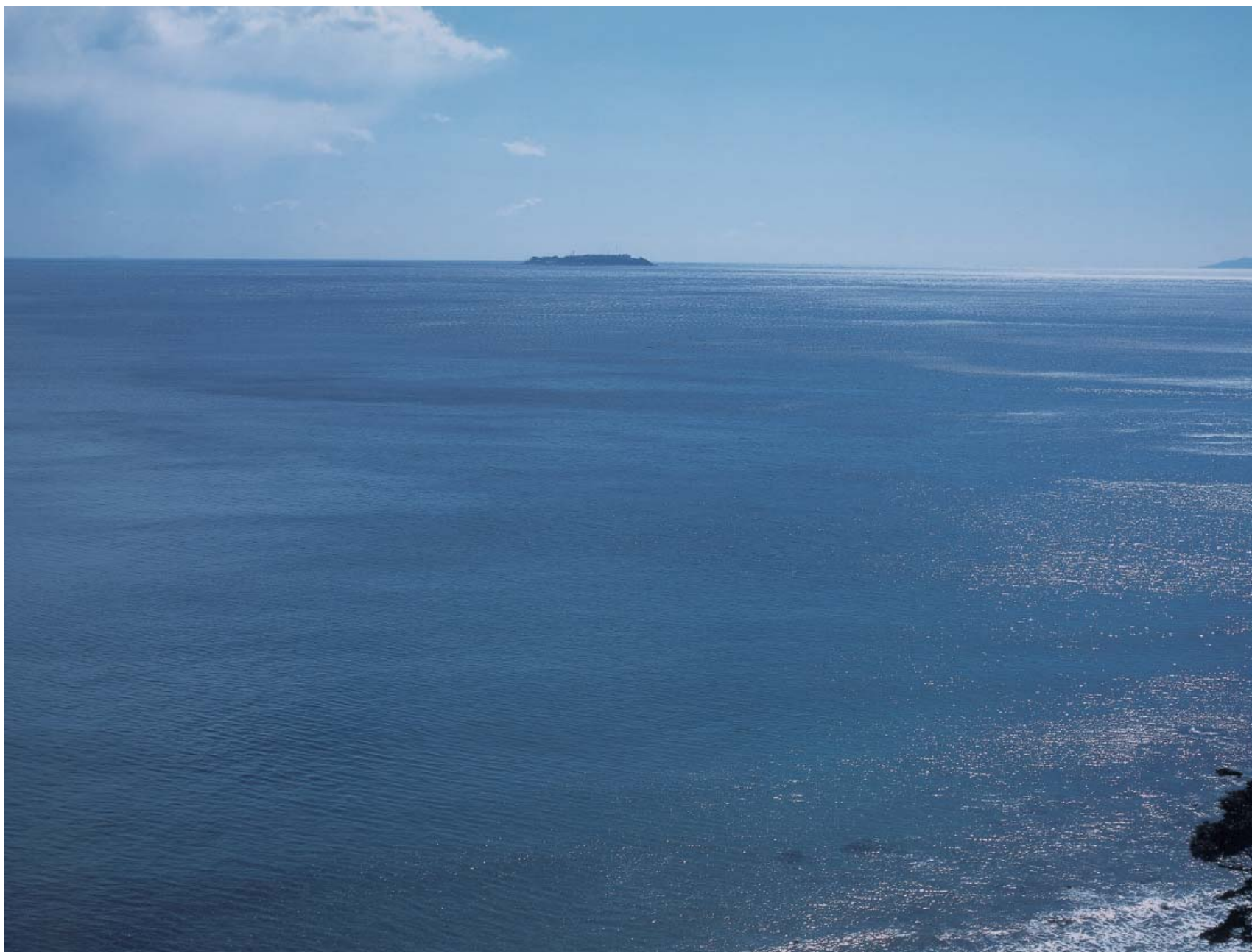
幻想曲 I



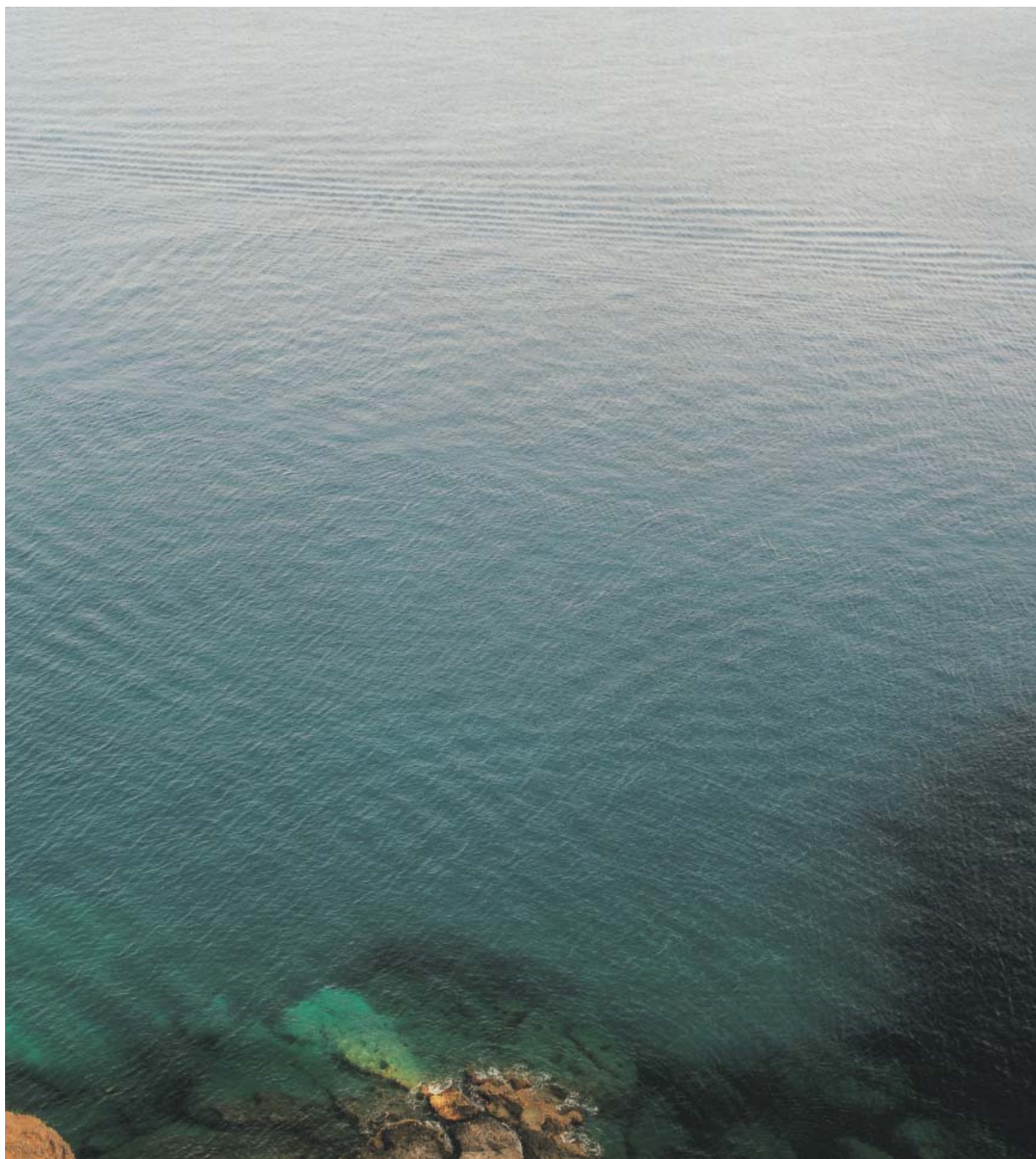
幻想曲Ⅱ



サファイヤ I



サファイヤⅡ

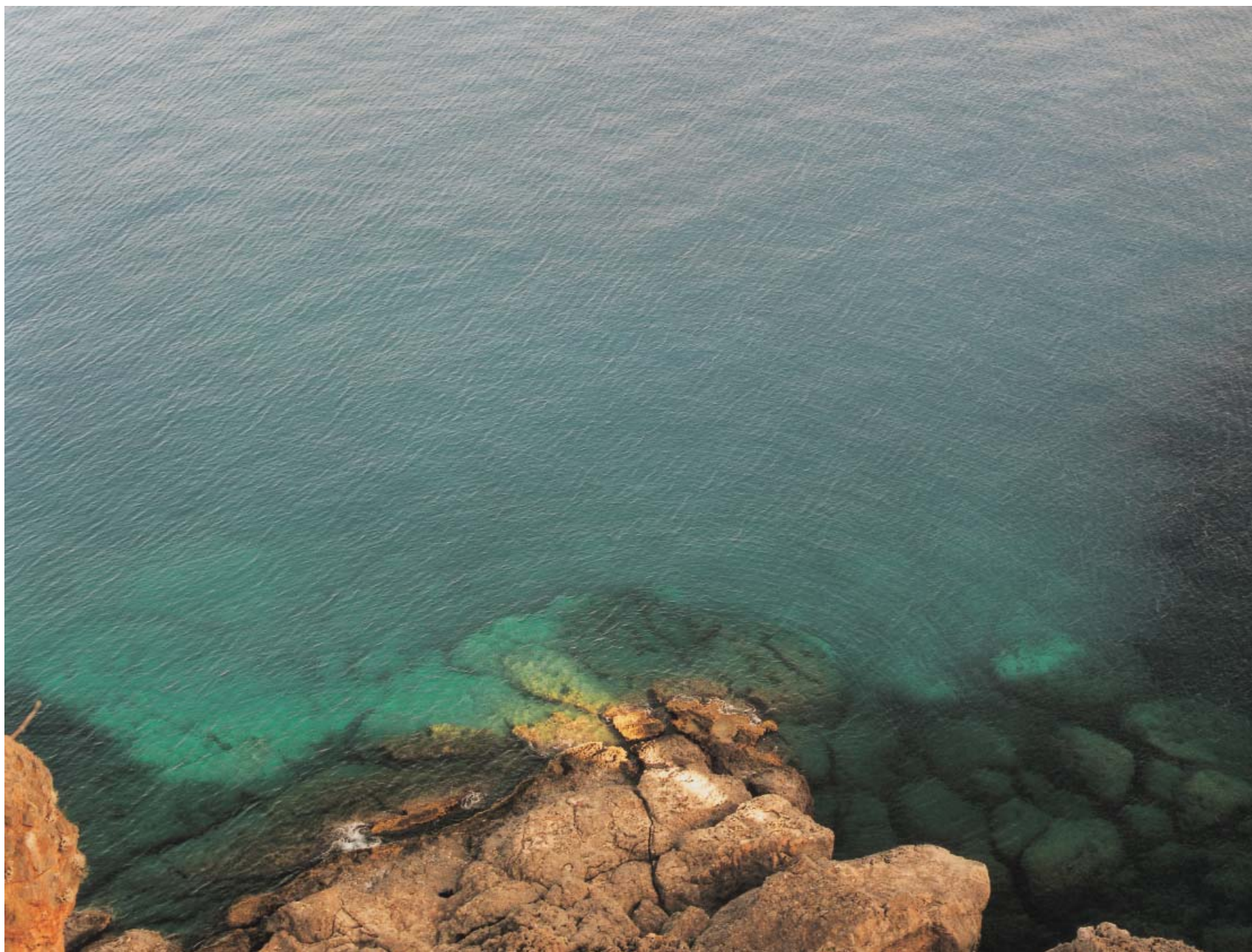


ロードスの海

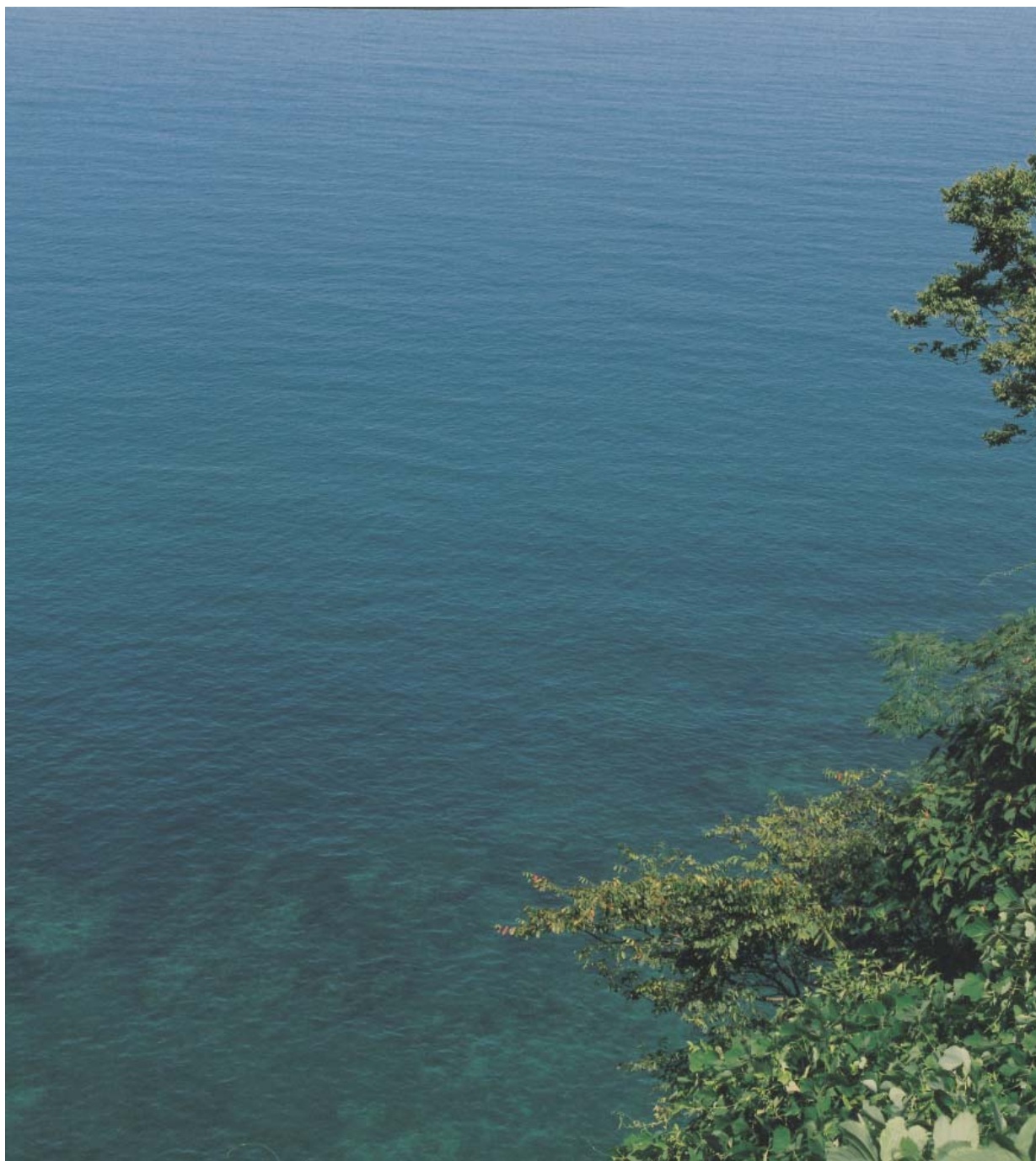
滯引いて
ヨットの白く
ワイン色の
ロードスの海も
空も光る

2006 9 江尻美也子

エメラルドⅠ



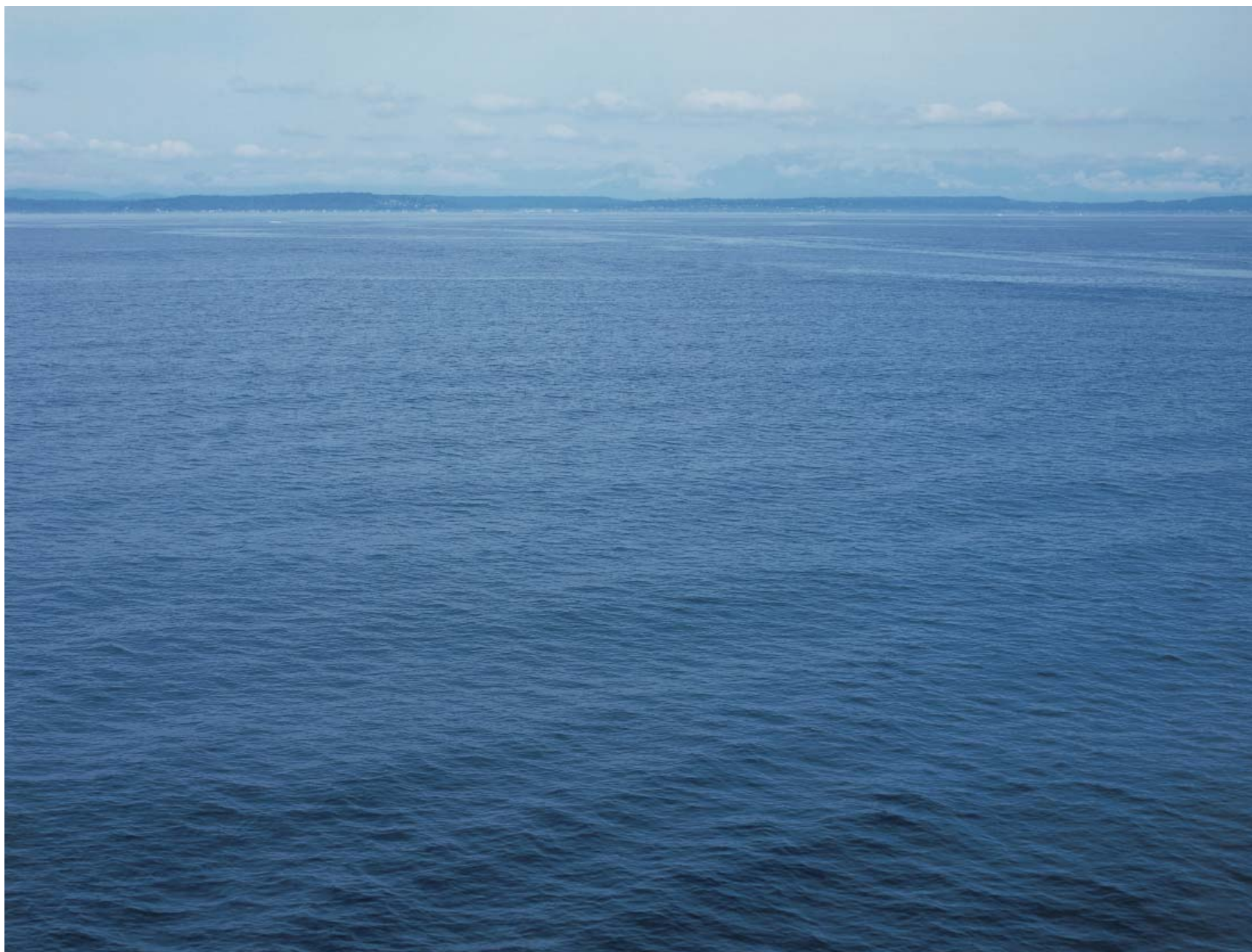
エメラルドⅡ



翡翠 I



翡翠 II



アクアマリン I



アクアマリンⅡ

詩曲	高知県 室戸岬東岸
幻想曲Ⅰ,Ⅱ	静岡県 伊豆 伊東東岸
サファイアⅠ,Ⅱ	静岡県 伊豆 伊東東岸
エメラルドⅠ,Ⅱ	ギリシャ ロードス島東岸
翡翠Ⅰ,Ⅱ	富山県 親不知海岸
アクアマリンⅠ,Ⅱ	
	アメリカ ワシントン州サンファン島入り江



Ⅲ. 波動



入り江のざわめき

今もわたしの耳のおくで
海はゆっくりとざわめいている

重い崖にかこまれた
あの青く深い入り江
人影も見えない・・・

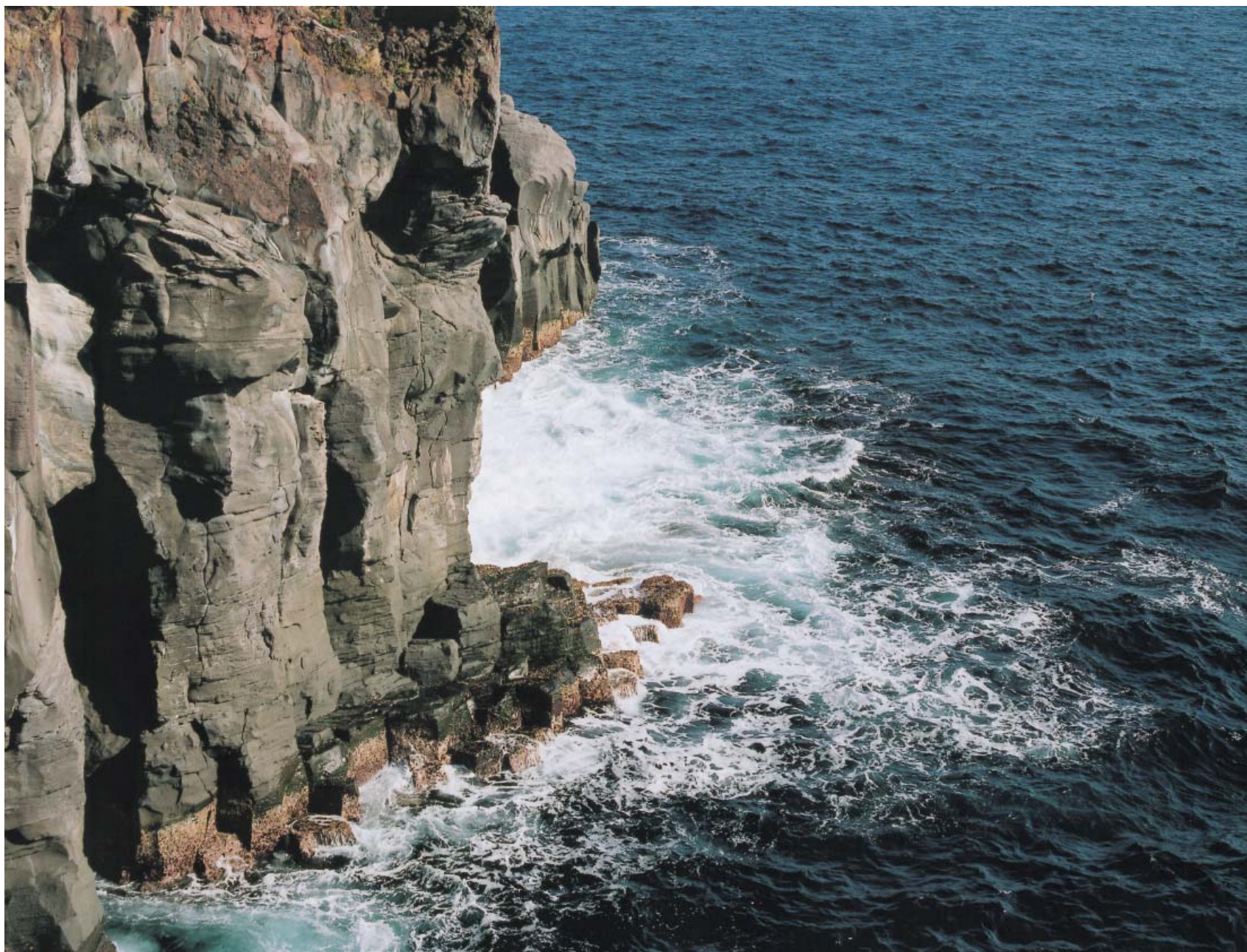
空は崖から崖へと
名も知れぬ鳥を飛翔させ
崖はその上にとまった鳥を
自分のものにしてしまう

あるとき・・・

海や空や鳥に
なっていた

1964 4 江尻美也子

入り江の合奏Ⅰ



入り江の合奏Ⅱ



波濤の連弾 I



波濤の連弾Ⅱ



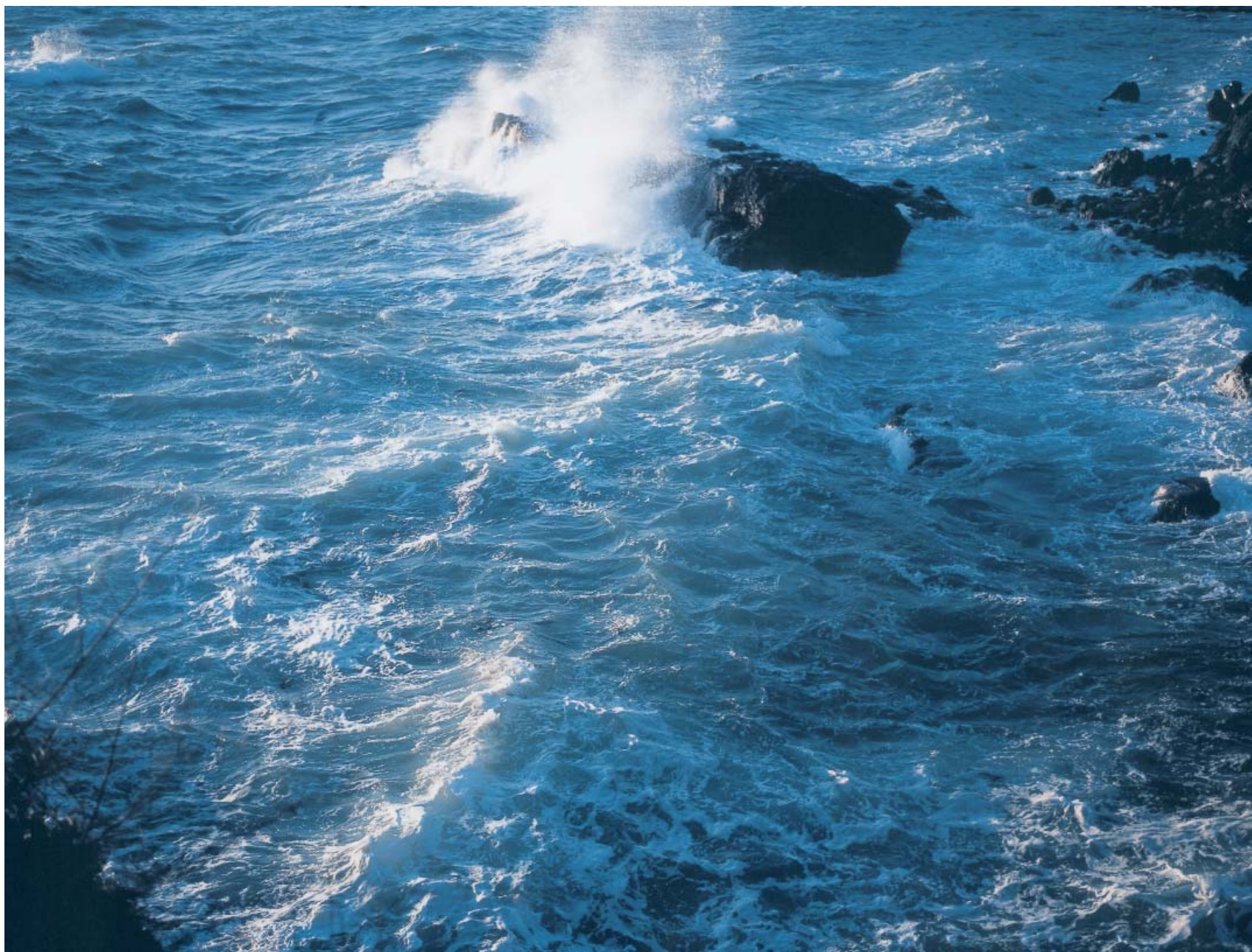
爽風 I



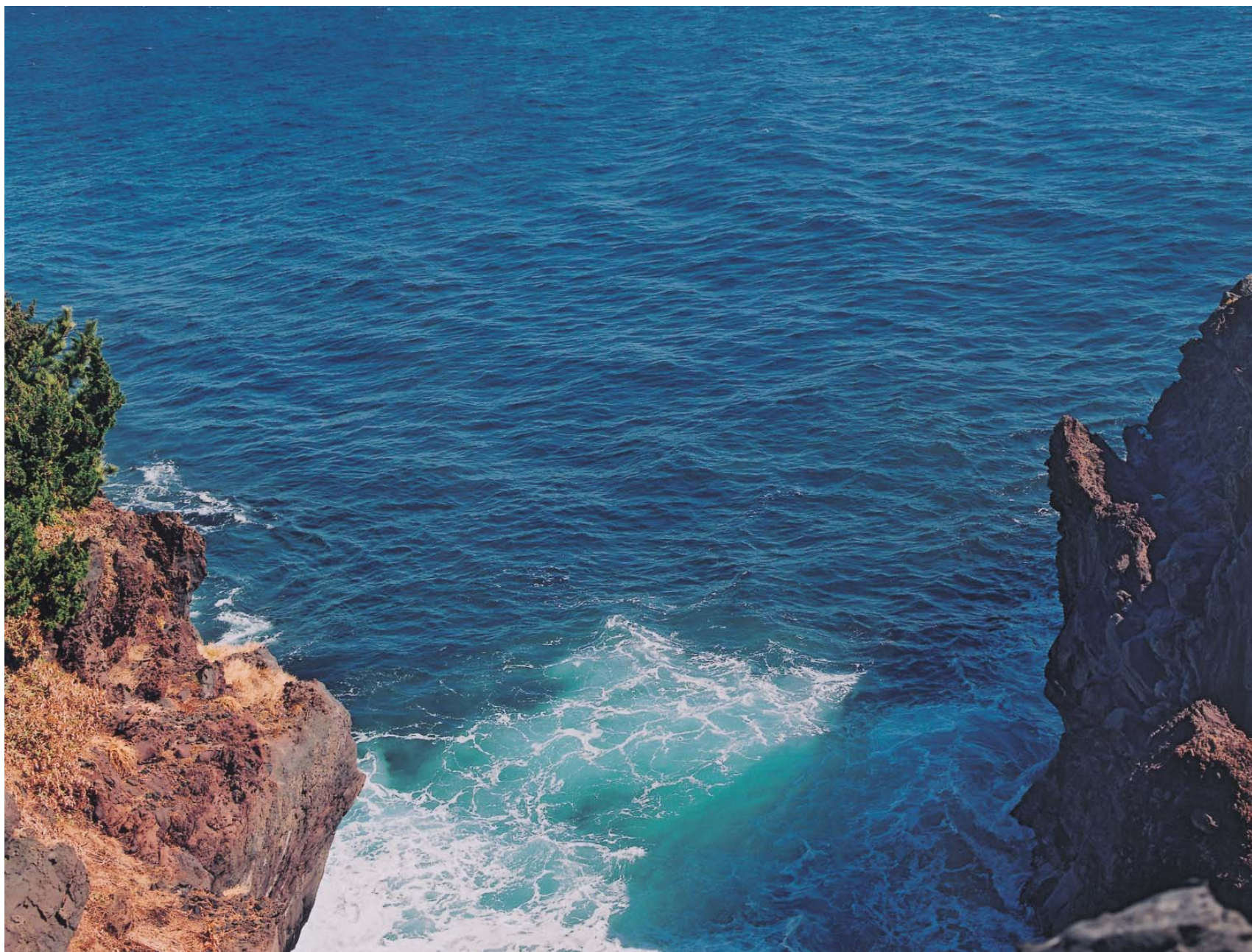
爽風Ⅱ



海のリズムⅠ



海のリズムⅡ



碧



藍

波動

入り江の合奏 I, II

波濤の連弾 I, II

爽風のワルツ I, II

海のリズム I, II

碧 藍

神奈川県 伊豆城ヶ崎

神奈川県 伊豆城ヶ崎

神奈川県 伊豆城ヶ崎

徳島県 室戸岬南岸

神奈川県 伊豆土肥西岸

神奈川県 伊豆城ヶ崎



IV. 肅洋



照洋 I



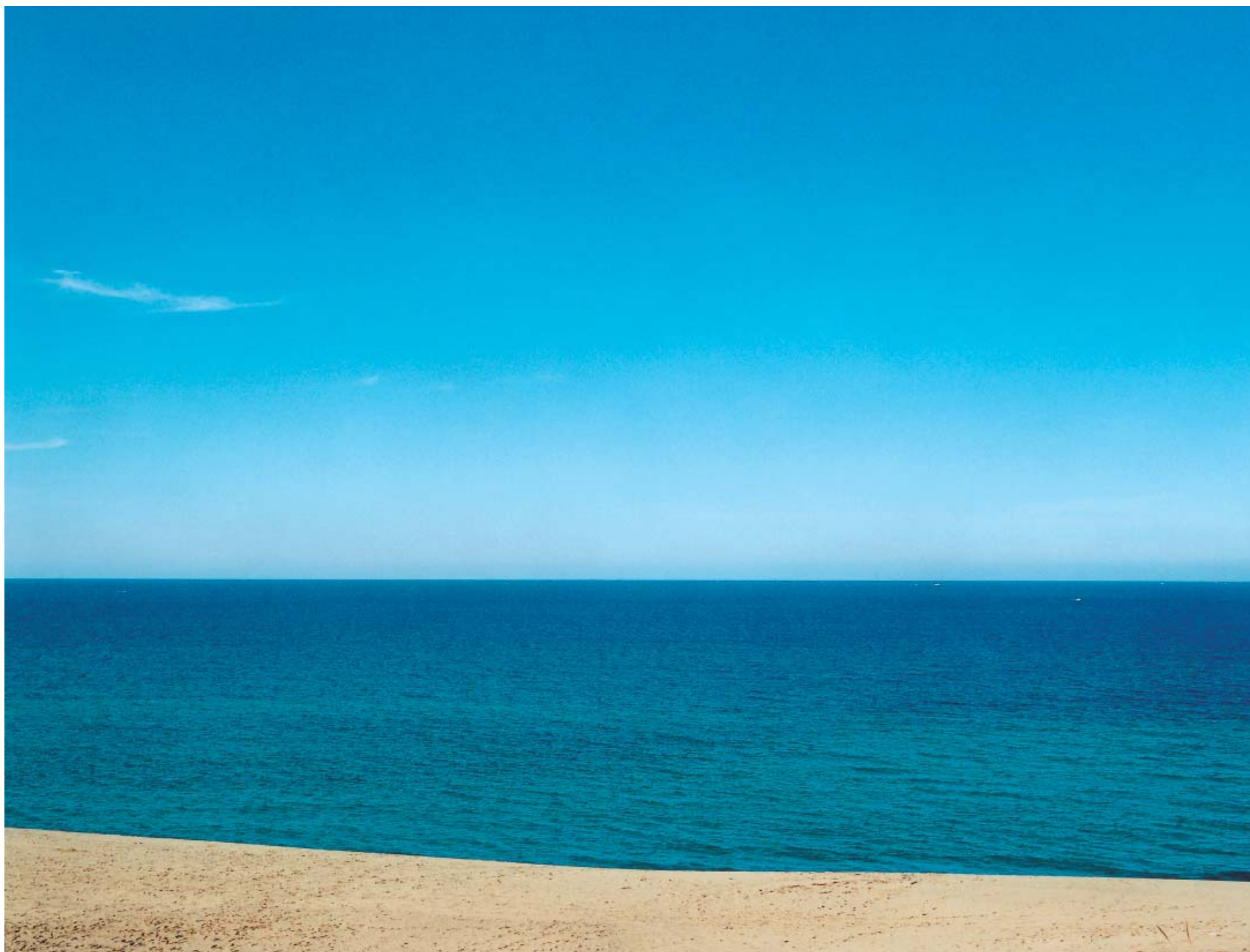
照洋Ⅱ



ローデスの海 I



ロードスの海Ⅱ



蒼の風景 I



蒼の風景Ⅱ



茜 I



茜 II



肅 I



肅 II

肅洋	千葉県鴨川東岸
照洋Ⅰ,Ⅱ	高知県 室戸岬南岸
ローデスの海Ⅰ,Ⅱ	ギリシャ ローデス島西岸
蒼の風景Ⅰ,Ⅱ	鳥取県 鳥取砂丘
茜Ⅰ,Ⅱ	神奈川県 湘南国際村から相模湾
肅Ⅰ,Ⅱ	神奈川県 湘南国際村から相模湾

あとがき

郷里の福島県いわき市は東に太平洋を望む。少年の頃より海辺にでて、いわき 7 浜の写真を撮った。中学、高校では、週末には 4-5 km を走って周辺の海岸に行くのを、日課ならぬ週課とした。当時のカメラはコニカ。

大学時代、アルバイトをして憧れのカメラ、ツァイス・コンタックスを手に入れ、写真に熱を上げる。しかし腕はそれ程上がらず。事実、私の写真を視た人は、カメラは何かと聞いた。その頃、物理の研究を第一の趣味、写真を第二の趣味と決めた。

1964 年 2 月、この写真集に詩をよせてくれた美也子と小金井公園の明るい林を散策。武蔵野の木々をバックに笑顔をカメラに収めた。初めて富士写真コンテストに出したら、いきなり入賞。題名の「早春」は美也子がつけた。まもなく彼女と結婚。その当時は、自分のカメラの腕は人並み以上だと思った。何年かしてからだが、それは思い違いであることを知る。写真は写心、被写体の「真」と撮影者の「心」を写す。

それからしばらく、いろいろな会で写真の撮影を頼まれる。初めは、結婚披露宴でもパーティでも、もっぱら写真撮影に終始。しかし、美味しいご馳走がなくなると心乱れては、カメラもぶれる事に気づく。それからは、高い会費のパーティでは、まずは「スープと料理は冷めないうちに」を心がける。

カメラの方は、何時からか一眼レフのペンタックスを愛用するようになった。国内では好んで岬にでかけ、人里はなれた海を撮る。国際学会が海岸のリゾート地で行われる時は、必ずカメラを持参した。

大阪大学に写交会有る。1998 年に「海のソナタ」と題する写真を初めて出したら、2 位に選ばれた。「冬のソナタ」が流行る何年も前の事だ。今回の写真集では奏鳴曲として載せた。

大阪大学を定年退官する前、大きな 67 型のカメラと特上の三脚を買い揃えた。これまでは研究 150 パーセントで土日も研究に明け暮れる毎日。定年後は研究は 100 パーセント程とし、週末は第二の趣味の写真にと考えたからだ。

カメラとレンズ一式を背負い、重い三脚を肩にかけ、国内外の海辺を歩いては、時々の変化にレンズを向ける。カメラに三脚、全部合わせて 7kg。実に重い。半分の 3.5 キロは身を削って標準体重にして対応、あとはジョギングで体力増進。写真の基礎は重荷に耐える体、まさに心技体だ。

横浜みなとみらいの自宅からは港と Bay Bridge が、湘南の週末の家からは相模湾が眼下に広がる。それぞれから朝日と夕日が望める。歩けば 3 分と 18 分で海岸に出る。

こうして撮った最近の写真のいくつかを集めたのが、本写真集「海の詩」である。また、紀伊の入り江と地中海のロードス島で妻が詠んだ詩と歌、それに鳥取砂丘での共作の詩を載せた。尚、印刷製本ではセイエイ出版の北山氏に大変協力して頂いた。厚く感謝したい。

江尻宏泰 略歴

1936 年 2 月	茨城県玉造町生まれ
1954 年 3 月	福島県磐城高校卒
1958 年 3 月	東京大学理学部物理学科卒 理学士
1963 年 3 月	同大学院博士課程卒 理学博士
1963 年 – 1974 年	東大原子核研究所、ワシントン大学 NPL, コペンハーゲン大学 NBI, 大阪大学核物理研究センター等で原子核研究と大学院指導
1975 年 – 1999 年	カリフォルニア大学客員教授、大阪大学理学部・大学院教授 大阪大学ラジオアイソトープ総合センター長、大阪大学核物理研究センター長 等 原子核・素粒子研究と大学・大学院指導、 学術会議原子核専門委員幹事、核物理委員長、東大宇宙線研協議委員等
1999 年 – 現在	大阪大学名誉教授 (現在)、ワシントン大学客員教授、国際高等研究所招聘学者 国際基督教大学オスマー記念客員教授、高輝度光科学研究センター役員、等 チェコ工科大学原子核科学客員教授 (現在)

素粒子原子核物理研究で 480 編余の英文論文 (欧米誌)、国際学会 120 余編論文と 15 編余の著書: 核分光と原子核物理 (英文オックスフォード出版)、原子核・ハイパー核・ニュートリノ核物理 (英文論文集)、クオーク・レプトン核の世界 (しょう華房)、量子的世界 (阪大出版会)、絵で見る物質の究極 (講談社) 二重ベータ核分光とニュートリノ研究で島津賞 (1992)。

写真歴

1948 – 現在	カメラ コンタックス 50mm, ニッコール 135mm、ペンタックス MX 50mm、 FUJIFILM NEXIA 4100、 ペンタックス 67 44mm, 90mm, 300mm、オリンパス C900, ペンタックス K20D、富士フィルム FinePixF-810
1964 年	富士写真コンテスト入賞
1998 年 – 1999 年	大阪大学写友会 会長
1998 年	大阪大学写友会コンテスト入賞

Hiro Ejiri
Emeritus Prof. Osaka Univ.
Vis. Prof. CTU Prague

Univ. Tokyo Physics
Dr. Univ. Tokyo

Univ. Copenhagen
Vis. Prof. Univ. California
Prof. Osaka Univ.
Director RCNP
Vis. Prof. Univ. Washington
Othmer memorial Prof. ICU

Nuclear particle physics
Hyper nuclear physics
Neutrino nuclear physics



宇宙物質国際会議
地中海コフ島

写 真 江尻宏泰

出 版 科学 写真 評論 出版 サファイア SAPPHIRE
Science, Artistic Photograph and PHilosophical Intellectual Review Edition

協 力 江尻美也子

印 刷 セイエイ印刷

発行日 2008 年 6 月

定 価 ￥2,310 (内消費税 ￥110)



D 線のエリア